

平成29年2月9日開会

平成29年第1回東松島市議会定例会

議員一般質問通告書

東松島市議会

≪ 議員一般質問 目次 ≫

平成29年第1回定例会

順位	氏名	件名	頁
第1位	熊谷 昌崇	1 情報の周知について	3
第2位	五ノ井 惣一郎	1 第2次総合計画の実施計画に伺う	4
		2 パークゴルフ場整備計画について	5
第3位	小野 恵章	1 阿部市政3期12年を総括すべき	6
第4位	古川 泰広	1 企業誘致の推進について	7
		2 7団地の課題について	8
第5位	菅原 節郎	1 事業者間の連携を	9
第6位	大橋 博之	1 鳴瀬地区のほ場整備事業を問う	10
第7位	小野 幸男	1 各漁港の安全対策について	11
		2 更なる観光事業の展望について	12
第8位	阿部 としゑ	1 学力向上について問う	13
第9位	多田 龍吉	1 本年度重点施策の成果と課題について	14
第10位	熱海 重徳	1 体育施設の整備利用について	15
第11位	佐藤 筐子	1 精神障害への理解を広げて	16
		2 男女共同参画基本計画第3次案について	17
		3 災害ボランティアの方向性を示せ	18

第12位	長谷川 博	1	国保税引き下げと被災者の医療・介護一部負担金免除継続について	19
		2	地域農業の担い手確保について	20
第13位	佐藤 富夫	1	本市の地域公共交通機関のあり方について	21
		2	宮野森小学校の安全通学について	22
		3	デンマークとの交流について	23

【質問者数13人・質問件数21件】

氏名	件名	要旨
<p>第1位</p> <p>熊谷昌崇</p>	<p>1. 情報の周知について</p>	<p>国縣市町村の制度について市民は有用な制度を知る機会が少ないと思う。先日、国民年金だけでは将来が心配という方に「付加年金というものがあるんですよ」と教えると、「そのような情報はどこでも教えてくれないんだよね」という声があった。また、今年の確定申告から、マイナンバーを記入し提出するようになった。マイナンバー制度は通知された番号がマイナンバーなのだが、その番号はカードを作ると同じ番号が来るとは考えず必ずカードを作らなければならないと勘違いをしている市民もいる。市役所職員であれば、分かっている当然の知識でも、一般市民は分からない制度が多い。そこで、国縣市町村の制度について、周知を図るべきではないか？</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第2位</p> <p>五ノ井惣一郎</p>	<p>1. 第2次総合計画の実施計画に伺う</p>	<p>東日本大震災から7年目に入り、本市は復旧、復興も計画通り進められている。第2次総合計画(平成28年～平成37年度)の10年計画「基本構想」、5年計画「基本計画」、3年計画「実施計画」の2年目に入り10年後の未来を見据え、市民と行政が共に本市の将来像を共有し、まちづくりを推進していくための指針としている。4月からは、行政と市民の橋渡しを担ってきた行政区長制度見直しによる地区自治会制度組織がスタートする。進行する人口減少や少子高齢化時代に備えるには確実な財政力が伴う。</p> <p>本年の事業予算の獲得にも苦労されたと思うが、次の3点に伺う。</p> <p>(1) 3年計画「実施計画」の2年目に入るが、全般にどのような計画をもって進めるか。</p> <p>(2) 地区自治会制度は4月から地区自治会に移行されるが、問題なく移行されるか、要望等について。</p> <p>(3) 各仮設住宅の入居、退去の状況、課題はないか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
五ノ井惣一郎	2. パークゴルフ場整備計画について	<p>昨年12月16日に矢本海浜緑整備に関する意見交換会が、県土木部の都市計画課、市当局、パークゴルフ協会役員の出席で開催された。これまで矢本海浜緑地再編整備には、25年9月から6回の会議が開催され、28年3月17日に県の最終案が示された。その中に多くの愛好者の要望が高かったパークゴルフ場整備の要望があり県においても海浜緑地公園整備と併せて54ホールの整備することに決定された。昨年の12月16日の会議で示されたパークゴルフ場の案件でクラブハウスの設置場(市側)、上浜橋北側の防衛省空地の駐車場の借地としての使用などの意見が出されたが、今年(平成31年)の完成を目指し発注されるようだが、その後の県、市当局の経過を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>小野惠章</p>	<p>1. 阿部市政3期12年を総括すべき</p>	<p>市長は、次期改選時には、昨年早々に手を挙げない旨を表明し、今日に至っている。</p> <p>当然のこと阿部市政の終焉^{しゅうえん}を迎える。この12年の市政運営において、平成23年の東日本大震災の復旧、復興等、数々の実績を重ねてきたが、今年5月には新しい市長がそれを引き継ぐ。新市長のもと、新たな施策が打ち出されるかは、不透明であるが、この12年の阿部市政を市長自らが、総括すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(1) 安全安心の住みよいまちづくり、協働のまちづくりの推進について。</p> <p>(2) 産業基盤の充実、企業誘致について。</p> <p>(3) 福祉、子育て、教育環境（学力向上）の充実について。</p> <p>(4) 行財政改革の取り組み強化について。</p> <p>(5) 松島基地との関係について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第4位</p> <p>古川泰広</p>	<p>1. 企業誘致の推進について</p>	<p>産業建設常任委員会では、企業誘致の一層の推進を図るために、企業誘致の先進地である長野県岡谷市における企業誘致推進事業について視察研修を実施したが、研修を踏まえ以下について伺う。</p> <p>(1) 岡谷市においては、産業振興部工業振興課を設置するとともに銀行出身の産業振興担当副市長を設置し、金融人との人脈や金融ネットワークを活用した情報収集と企業訪問を実施し多大な成果を上げている。本市においても企業誘致事業推進の強化を図るための組織体制を確率すべきと思料されるが伺う。</p> <p>(2) 前述の多大な成果は最終的にはトップセールスにあるとの説明であったが本市におけるトップセールスとの実態とその課題について。</p> <p>(3) 岡谷市における企業訪問回数は、年間258回～1214回も訪問しており、年度ごとに見れば企業訪問回数と誘致実績とは必ずしも比例はしていないが、毎年度着実に企業を誘致しているとともに、7年間で23社も誘致しており、誘致には企業訪問は欠かすことのできない重要なものとなっており、本市においても企業訪問を強化すべきと思料されるが伺う。</p> <p>(4) 企業訪問時には経済産業局や県事務所など関係機関も訪問し、情報収集と本市のPRに努めるべきと思料されるが伺う。</p> <p>(5) 誘致企業には市内からの常勤雇用者の採用などを条件に優遇支援策を検討すべきと思料されるが伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
古川泰広	2. 7団地の課題について	<p>防災集団移転促進事業による7団地の造成工事が完成し、供用が開始され、最後に供用開始された野蒜北部丘陵団地も住家の新築・入居が進み団地としての街並みが形成されつつあるが、入居者からは安全で快適な団地づくりのための要望が出されており以下伺う。</p> <p>(1) 信号機と横断歩道設置による交通安全対策について。</p> <p>① 牛網団地に通じる市道牛網・関下線と交差する国道45号への信号機設置。</p> <p>② 新野蒜駅に通じる市道と台前・亀岡線との交差点に信号機設置。</p> <p>③ 鳴瀬未来中学校の通学路となる上野蒜・野蒜ヶ丘線と上野蒜・大塚線との交差点に信号機設置。</p> <p>以上3カ所の信号機設置要望については平成27年第2回定例会における一般質問で「検討する」または「協議中」との回答があったものであり設置に向けた進捗状況と設置予定を伺う。</p> <p>④ 野蒜北部丘陵団地内の市道と上野蒜・野蒜ヶ丘線との交差点への信号機設置と宮野森小学校正門前に横断歩道と信号機の設置を要望すべきと思料されるが伺う。</p> <p>(2) 野蒜北部丘陵団地東名駅周辺の住家の新築・入居が進み、それに伴い東名駅の利用者も増え、朝夕の通勤通学の時間帯だけでも仙石東北ラインの停車駅にしてほしいとの強い要望があり、JRへ要望すべきと思料されるが伺う。</p> <p>(3) 野蒜北部丘陵団地の切土法面に植栽した芝（よもぎ）が枯れ、地肌が露出し出しており、将来のメンテナンス費用を考慮し、対策を講じるべきと思料されるが伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第5位</p> <p>菅原節郎</p>	<p>1. 事業者間の連携を</p>	<p>過日、市内進出企業間の橋渡し役を務める機会を得た。双方とも同じ市内で事業を展開しながらも、面識も無く会社概要も知らない状態であった。もったいない話である。市内事業者の中には、画期的な技術やこだわり抜いた製品を生産しているところも数多くあると思う。</p> <p>その事業者間の連携を深める機会を行政が旗を振ってはいかがかと提言したいが、市長の見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>大橋博之</p>	<p>1. 鳴瀬地区のほ場整備事業を問う</p>	<p>平成26年第4回定例会において県営ほ場整備事業を強力に推進せよと質問をさせて頂いた。市長の熱い情熱が伝わる素晴らしい答弁を頂き大変感激をした。その答弁通り事業は順調に進んでいる。津波浸水地域である大曲地区、西矢本地区、奥松島地区は復興交付金を活用した整備事業ではほぼ完了が目前だ。最終的な整備率は80%を超えることを数値目標とするとのことだった。その中で未整備である鳴瀬地区の上下堤・川下地区、西福田下・新田・高松地区のほ場整備事業への取り組みについて基本的な考え方を伺う。</p> <p>(1) 各地区での事業採択の目標年度は。</p> <p>(2) 矢本地区との整備時期のバランスは。</p> <p>(3) 県、土地改良区、JA等との連携体制は。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第7位</p> <p>小 野 幸 男</p>	<p>1. 各漁港の安全対策について</p>	<p>この件については以前も質問したが、市長が掲げた安心安全とおさらいも含めて以下について伺う。</p> <p>(1) 震災後の大きな問題でありながら、なかなか進捗の 見えない浜市漁港の将来性について伺う。</p> <p>(2) 各漁港への監視カメラの設置が暗礁<small>あんしょう</small>に乗り上げているとのことだが、春先を前にして人の出入りも多く予想され、事件は現場で起きるのでいち早い設置を漁民は待ち望んでいることから方向性を示せ。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
小 野 幸 男	2. 更なる観光事業の展望について	<p>震災から6年を迎え新たな観光の取り組みが模索され、つい最近では仙台空港から奥松島へのインバウンド対策も兼ねた周遊ルートがスタートし、自然の家の屋外フィールドも4月からようやくオープンの運びとなり、その1カ月後には議会の皆様のご理解をいただいた宮戸地区の複合施設も開業予定である。ここにきて一気に交流人口の増加が見込まれ万全なる体制作りも必要なことから以下について伺う。</p> <p>(1) 再度伺うが、インバウンド対策の^{しんちよく}進捗度合について。</p> <p>(2) 交流人口の増加に伴う自然の家とのコラボレーションの取り組みは。</p> <p>(3) 複合施設内の食堂部門の対策について（げんちゃんハウスは3月いっぱいを目途に閉店）伺う。</p> <p>(4) 今後ますます、奥松島公社の役割が重要になることから、新たな取り組みの方向性を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第8位</p> <p>阿部としゑ</p>	<p>1. 学力向上について問う</p>	<p>この問題については、過去に何度も同僚議員が一般質問をし議論を重ねてきた。</p> <p>本市教育委員会や民生教育常任委員会も、学力向上に向け学力上位の秋田県横手市等を視察研修している。</p> <p>各方面での努力はしているものの依然として全国平均および宮城県平均を下回る状態にある。その原因は教育委員会でも認めているとおり児童生徒の学習習慣や基本的な生活習慣にあるものと考えられる。</p> <p>夢や希望をもち、目標に向かって勉強をやりたいと思う環境をつくってやるのも我々の務めと考える。子や家庭地域が一体となり、10年後、20年後を見据えて早急に取り組むべき問題と捉え以下について問う。</p> <p>(1) スマートフォンや携帯電話の夜間の取り扱いについて。</p> <p>(2) 授業力、教師力の向上の考え。</p> <p>(3) 輝いている人、活躍している人(身近な人でも良い)の講演を聞いたり特別授業を企画したりと学力向上に向け自由に使える教育予算の確立。(長い目で見ての環境づくりへの支援)</p> <p>(4) 本市ではこれまでと違った対策をし、学力向上にむけどのように取り組もうとしているのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第9位</p> <p>多田龍吉</p>	<p>1. 本年度重点施策の成果と課題について</p>	<p>間もなく東日本大震災から6年目が巡ってくるが、極限ともいえる困難な状況下での市政運営を担ってきた阿部市長は、今限りで退任する意向を先に表明した。防災集団移転団地7団地のうち、最後の野蒜北部丘陵団地が昨年11月に完了し、住居の再建が加速しつつあり、同団地の災害公営住宅への入居も本年お盆までには完了する見込みで、市長の、これまでの数々の労をねぎらいたい。</p> <p>昨年2月の市議会定例会で、平成28年度における所信の表明があり、集団移転団地の完成は、ゴールではなく本格的な復興のスタートと述べている。</p> <p>第二次「本市総合計画前期基本計画」に基づき、重点的かつ戦略的に取り組む分野として5つの重点施策を設定し、平成28年度市政運営の基本方針として表明された。施策推進の初年度の途中であるが、これまでの重点施策の成果と課題について、以下伺いたい。</p> <p>(1)「安全安心に暮らせる防災自立都市づくりの推進」について。</p> <p>(2)「若い世代の定住促進」について。</p> <p>(3)「健康寿命の延伸」について。</p> <p>(4)「自治協働の推進」について。</p> <p>(5)「産業振興の推進」について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第10位</p> <p>熱海重徳</p>	<p>1. 体育施設の整備利用について</p>	<p>復興が進み、体育施設においてもあおい地区北の新体育館や奥松島運動公園などが計画・実施されている。しかし、現状では矢本運動公園に今後、仮設住宅が集約される予定もあり、鷹来の森運動公園への利用が集中している。</p> <p>その中で利用者からの施設改善要望が多数あり、その対応について伺う。</p> <p>また、他市内体育施設の利活用について以下の点を伺う。</p> <p>(1) 鷹来の森運動公園において、提出されている整備要望（屋内運動場の照明・ネットなど）の対応について。</p> <p>(2) 一年前にスポーツ協定を結んだ日本体育大学との連携行事について。</p> <p>(3) 休館日の利用について。</p> <p>(4) 移転後の鳴瀬未来中学校・鳴瀬桜華小学校の体育館・校庭の利用について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第11位</p> <p>佐藤 筐子</p>	<p>1. 精神障害への理解を広げて</p>	<p>3 障害のうち、あまり理解されていない精神障害については周囲にその症状が理解されにくく、恐怖感や先入観、差別感情が起きやすいと「みやぎ心のケアセンター」地域支援部長は言う。そのために精神疾患を持つ人の受診率低下、社会的関係の阻害、住居や雇用機会の制限などにつながりやすいとのこと。</p> <p>東日本大震災ではその大きなストレスで精神に不調を感じながらも自ら受診する人は多くなかったようだ。そのためにうつ病やアルコール依存症などの疾患が多くなった。</p> <p>東松島市や宮城県という単位でも精神障がい者の家族会はあるが細々と活動をしている。いつ誰が何をきっかけに精神障がい者になるかわからない時に一般市民に理解を広げ、行政が何をすべきか。市長が考える障がい者と家族が安心して暮らせる東松島市について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
佐藤 筐子	2. 男女共同参画基本計画第3次案について	<p>1月に宮城県が男女共同参画基本計画第3次案についてパブリックコメントを募集していた。もちろん私も第2章・第3章で気が付いた点や全体の感想などをコメントしたが、期せずして石巻の男女共同参画推進審議会が市長に答申した記事が掲載された。内容がほぼ同じようだったというのは偏っていると思ったのが私だけでは無かったということだ。</p> <p>本市の場合について</p> <p>(1) 作成に至るまでの意見をどう集約したのか。</p> <p>(2) 環境や生活の違う自治体と県・国の整合性を考えるとき、文言表現はどう変わるのか。</p> <p>(3) 市から諮問された審議会があったのか、部や課内だけでまとめたのか。</p> <p>(4) 国が打ち出した「企業主導型保育」は条件が厳しいが、市が独自に働く女性のために預けやすい企業・男女とも育休を取りやすい企業を推進することで若年層の人口増にも期待が持てる。</p> <p>以上4点について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要 旨
佐藤 筐子	3. 災害ボランティアの方向性を示せ	<p>1月末に仙台で「災害ボランティアの可能性」というシンポジウムがあり、県内の女性議員4人で参加した。</p> <p>熊本県御船町・岩手県宮古市・宮城県大崎市の各社協からと、東京都のNPO法人は世界120カ国に支部を持つ国連経済社会理事会の諮問機関の日本支部からシンポジストが登壇、コーディネーターは鳥取県からで各地の災害の様子やボランティアの様子、ボランティア活動の終末期に出る問題などについて聞いた話は有意義なものだった。</p> <p>熊本県御船町から出た2次避難所の問題、東日本大震災と台風10号の被害にあった宮古市から地元ボランティアが少なかったことや高校・大学の学生ボランティアの活躍など。大崎市から豪雨災害が市の一部だったが子どもたちや学生の活動とボランティアセンターの中にあるグループが日常的にさまざまな活動をしていたことが役に立ったとのこと。</p> <p>東松島市にもボランティア活動をして市民となった方々もいる一方で同じように他の被災地でボランティア活動をした市民向けの「方向性」を考える機会があればいいのではと思うがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第12位</p> <p>長谷川博</p>	<p>1. 国保税引き下げと被災者の医療・介護一部負担金免除継続について</p>	<p>昨年9月議会で、独自のアンケートに寄せられた「払いたくても払えない」とする声を紹介して国保の現状と課題についてただしたところ、本市の国保税は県内で2番目に高いという実態が明らかにされた。</p> <p>一方で、政府は「低所得者の多い保険者対策」として、2015年度から約1,700億円の財政措置を行い、厚労省は「被保険者の保険料軽減、一人当たり約5,000円の税制改善効果」になると公表している。</p> <p>他方で、本市の国保会計の財政調整基金（積立金）は、26年度の税率改正以後は基金が増え続け、28年度当初には27年度決算分から8,500万円を積み立てて、積立総額5億1,600万円余りになることも明らかになった。この際、国保財政調整基金の一部を取り崩して、国保税の負担軽減を図るべきと考えるがどうか。</p> <p>また、先ごろ、被災者の支援団体が来庁し、県内の被災者を対象に実施したアンケート調査の結果を示して、29年度も引き続き一部負担免除措置の継続を市に要望した。</p> <p>宮城県では免除措置の対象が限定され、28年度は本市も含め9自治体のみになっている実態だが、昨年12月中旬、国は被災3県に対して特別調整交付金を一律10分の8で財政支援を継続する旨の通知を出した。よって、本市でも厳しい暮らしを余儀なくされる被災者の状況に鑑み、医療等の一部負担金免除を29年度も継続実施すべきと考えるがどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
長谷川博	2. 地域農業の担い手確保について	<p>少子高齢化の進展や生活の多様化に伴い、農家の中で、農業の担い手不足が心配されている。被災した本市では、沿岸部浸水地域で農業の再開を断念するケースが多く見受けられた。津波による余りにも甚大な被害で、個人の努力には限界もあり、やむを得ないという側面があることも事実だ。本市における直近の農林業調査で、基幹的農業者の年齢別人口はどのような実態になっているのか。そのうち、70歳以上の人数や全体に占める割合はどうなっているか。また、新規就農者の実態はどうか伺う。さらに、前回調査との比較で推移はどのようになっているか伺う。</p> <p>一方、津波で被災した農地の復旧では基盤整備事業によって大区画ほ場が整備され、加えて「農地中間管理機構」によって農地が一部の経営体に集中、経営規模拡大や農地の集積が極端に進んだ。もとより、農地の集積・集約化、規模拡大や法人化を否定する立場では無いが、ともすればこうした経営形態にのみに目が向きがちなこと事実である。</p> <p>しかし、本市の基幹産業とする農業を営む経営体、農家全体を見渡せば、経営規模に多少の差はあるものの、兼業も含め小規模で複合的な経営が多数を占めていると考えられ、そうした農家の支えがあつて地域農業が成り立っていると思料する。こうした実態への認識はどうか伺う。</p> <p>このまま離農が進めば、農業の活力が失われ、農村の多面的機能までも失われていくことが危惧されてならない。よって、家族経営農業はもとより、小さな農の存在の社会的な価値を再認識し、営農を継続する担い手確保に向けた市独自の支援策を検討して頂けないものか。「大規模化だけで地域農業は守れない」との強い思いが自分にはある。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第13位</p> <p>佐藤富夫</p>	<p>1. 本市の地域公共交通機関の在り方について</p>	<p>表題の本市における交通手段として震災前と後に設置された①デマンドタクシー「らくらく号」、②震災無料循環バス、③借り上げタクシー「のびる思いやり号」がある。いずれも、交通弱者への施策として歓迎され、議会も同意した。</p> <p>しかし、時がたつにつれ、さまざまな問題点が浮上し、市民からは多々苦情が寄せられることとなった。例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用時間が限定されている。また、休日昼休み時間が運休のものもあり、使い勝手が悪い。 ・所要時間の問題。 ・乗客数が少なく費用対効果がない。中には一人に対し、約17,000円の費用を要するものもある。 ・デマンドタクシーを除いて、市内全域が被災した中で、なぜ、野蒜、宮戸地域限定なのか。 <p>ほか、多数の問題点が指摘されている。こうした中、年度替わりを控え、公共交通機関の在り方について、手法の転換、廃止を含め費用対効果等の見直しをすべきと思料する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 前述の問題点についての総体的所見。 (2) ①の前述に対する所見について。 (3) ②の前述に対する所見について。 (4) ③の前述に対する所見について。 <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
佐藤富夫	2. 宮野森小学校の安全通学について	<p>先日、6時56分発のJRに乗るため、野蒜駅に行った。朝にもかかわらず車がスピードを出して駅前を数台通過していった。危ないなと思いつつ見ると横断歩道標示が無いことに気付いた。西の方を見ると約500m向こうに標示がある。さてここは通学路のはず、もちろん通学路である印も無い。後で知り合いに聞くと、2月中旬に標示をする予定であるとのこと。しかし学校は既に始まっている。その間、安全通学は保たれるのだろうか。何も無ければそれで良いのだろうかの素朴な疑問。私は、学校、教育委員会の根本的な考えを伺いたい。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要 旨
佐藤富夫	3. デンマークとの交流について	<p>日本との交流150年を機に、私は公募により8日間(正味6日)の日程によりデンマークでの研修に参加してきた。私のテーマは地方政治とグリーンエネルギーであったが、他にも、福祉、環境、交通事情、農業、教育と参加者15名がハードスケジュールの中、それぞれが得るものがあったと私は感じ取ってきた。</p> <p>しかし、デンマークは遠い。経費の問題もある。私は少し手法を変えても継続すべきと思うが、今回の交流の成果を本市にどのように活用して行くか、人材育成の観点も含めて伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

